

第5回 下北地区統合校検討委員会

【会議録】

令和6年9月26日(木)

むつ市政策推進部企画課

1.日 時 令和6年9月26日(木) 14:00 ~15:00

2.場 所 むつ市役所 大会議室 B

3.出 席 者 【委員】

高橋 興 青森中央学院大学 特任教授

阿部 謙一 むつ市教育委員会 教育長

半田 義秋 川内町商工会 会長

越後林 達巳 大畑町商工会 会長

伊藤 文一 大湊高等学校 校長

野呂 政幸 むつ工業高等学校 校長

畑山 元康 下北地方中学校長会 風間浦中学校長

岩淵 崇 むつ市連合PTA 会長

畑中 貢 東通中学校PTA 会長

中塚 将行 風間浦中学校PTA 会長

高坂 一弘 大湊高等学校PTA 会長

濱田 大臣 むつ工業高等学校PTA 会長

又村 彰 大湊高等学校 同窓会 会長

木村 努 むつ工業高等学校 同窓会 会長

佐々木 一浩 大湊高等学校 後援会 理事長

吉田 成人 むつ工業高等学校 後援会 理事長

欠 席:内田 大輔 むつ市商工会議所 会頭

石田 佳奈 むつ市連合 PTA 副会長

大久保 齊 むつ市連合 PTA 副会長

堺 祐介 大間中学校PTA 会長

津田 尚樹 佐井中学校PTA 会長

【オブザーバー】

○青森県教育庁

佐藤 広洋 高等学校教育改革推進室 室長

花田 朋亨 高等学校教育改革推進室 室長代理

秋田 春樹 高等学校教育改革推進室 指導主事

渡部 裕介 高等学校教育改革推進室 主事

福士 浩司 学校施設課 課長

畠山 啓介 学校施設課 総括主幹

○町村

村上 純一 風間浦村教育委員会 教育長

曾根 智子 佐井村教育委員会 教育長

小原 広基 横浜町教育委員会 教育長

【事務局】

角本 力 政策推進部 部長

井戸向 秀明 政策推進部 企画課長

大橋 貴子 政策推進部 企画課 主幹

西田 裕昭 政策推進部 企画課 主幹

川端 寿英 政策推進部 企画課 主任

鳴海 彰仁 政策推進部 企画課 行政実務研修員

1. 開会

(司会)

定刻となりましたので、ただいまより第5回下北地区統合校検討委員会を開催いたします。本日はお忙しい中、御出席賜り誠にありがとうございます。

私は本日の司会を務めます政策推進部企画課の鳴海と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日の進行ですが、皆様のお手元にお配りしております次第に沿って進行させていただきます。

それでは、次第の「2. 委員紹介」については事務局から御紹介させていただきたいと存じます。

2. 委員紹介

(企画課長)

皆さん、こんにちは。私はむつ市政策推進部企画課長の井戸向と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは私の方から新たに就任されました委員の皆様を御紹介させていただきます。

まずは県立大湊高等学校PTA会長 高坂一弘様でございます。

続きまして、下北地方中学校長会から、風間浦中学校 校長 畑山元康様でございます。

それでは当該委員会は、ただいま御紹介いたしました御二方を含めまして、全部で21名の構成となります。

今回、新たに風間浦中学校の畑山校長先生に委員に御就任いただいた経緯について御説明させていただきます。

今回の会議に合わせてお配りしております、「令和6年度 進路に関するアンケート調査結果」について、前回の会議以降、高校及び中学校に御協力をお願いしにお伺いしましたところ、下北地方中学校長会の会長であります、田名部中学校の成田校長先生から下北地区統合校検討委員会に、「中学校の現場の声をお届けしたい」という御意見をいただきました。

これから高校に進学することになる中学生の現状を知る中学校の校長先生から御意見を頂戴することは、当該委員会で最終的に取りまとめいたします要望内容の充実にもつながりますことから、下北地方中学校長会に御推薦をいただき、今回の会議から畑山校長先生に御参画いただくことになりましたので、御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、このことに伴いまして委員定数を増やす必要が生じたことから、当該検討委員会設置要綱を一部改正しておりますので、お手元に配付の、改正後の設置要綱をのちほど御確認いただければと思います。

それでは、ここからは具体的に議事に入っていきたいと思いますが、当該検討委員会は、本日の会議と次回の会議、残すところあと2回の会議で最終的に要望書を取りまとめる予定としております。

そのため、本日は、要望書の最終とりまとめに向けまして、今回御提示させていただいております「要望書（案）」の内容を中心に、委員の皆様にご意見交換していただきたく考えております。

「要望書（案）」の内容について、意見交換をしていただく前に、まずは、青森県教育委員会様から「前回の会議で出された質問・意見等」について御説明をしていただき、その後で、事務局の方から「進路に関するアンケートの調査結果」及び「要望書（案）」について御説明させていただきます。

委員の皆様におかれましては、これらの説明を踏まえまして、「要望書（案）」の内容をどのようなものにしたらいかが、議論を深めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは、座長に進行をお願いしたいと存じます。高橋座長、よろしくお願いいたします。

3. 県教委からの説明

（高橋座長）

座長を務めさせていただいております高橋でございます。本日はよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、議事を進行させていただきます。次第の「3. 前回の会議で出された質問について県教委からの説明」をお願いします。

（佐藤室長）

高等学校教育推進室の佐藤といいます。本日はよろしくお願いいたします。前回は出席できず大変申し訳ございませんでした。前回された質問に対して回答させていただくという形で、答えさせていただきたいと思っております。座って説明させていただきたいと思っております。

第4回下北地区統合校検討委員会の委員の皆様からの御質問等について説明させていただきたいと思っております。まず初めに、施設に関わる御質問をいただきました。これにつきましては学校施設課の方から、回答させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（福士学校施設課長）

この4月から県立学校の施設を担当しております学校施設課長の福士と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からは新校舎の設計に関するお話と、むつ工業高校に隣接する市営住宅の敷地に関するお話、この2点についてお話をさせていただきますけれども、回答に入る前に、1点皆様へお願い、お諮りをしたいことがございます。この設計の話をするにあたりましては設計図面を元に皆さんに

説明をした方がお互い共通認識を持つ上で進みがいいのかなというふうに考えているところですが、ただ、この設計図面につきましては非常にデリケートなものでございまして、提供先でありますところの工事発注者さん、それから設計者の側から、この資料が外に漏れることは決してあってはいけない、例えばSNSでアップされるだとか、報道されるということが決してあってはいけないということで、撮影などにつきましては厳に慎まれるように取り扱いを厳正にさせていただきたいというお話を伺っております。その条件のもとに預かってきているものでございまして、皆様には、今回マスコミの方々も含めて、お配りした上で説明をさせていただきたいと思うのですが、皆様にも撮影しないということ御理解いただけますでしょうか。よろしいですか。はい、その上で説明が終わりましたら回収させていただき、という条件のもとに説明をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。それではまず資料をお配りします。

((図面の資料を配付))

よろしいでしょうか。それでは座ったまま説明させていただきます。新校舎について説明いたします。

新校舎は左右2つの棟から成り、右側が3階建てです。3階建ての管理教室棟、左側は2階建ての実習教室棟としています。一番左下にあるように、管理教室棟は上空から見た際に下北半島を模した形をしています。管理教室棟については、1階から3階まで吹き抜けとなるダイナミックホールが中央にありますけれども、ダイナミックホールとその隣に大講義室を配置しています。大講義室におきましては、ホールとの壁をオープンにすることができ、ホール、大講義室、中庭と連続した大空間とすることが可能となり、学校行事のみならず、地域交流等での活用が期待できます。また、南側、1番下の方になりますけれども、南側には普通教室を配置し、1階から3階まで各教室から陸奥湾を望むロケーションとなります。その他一部の特別教室においては、可動式の間仕切り壁を設置し、用途により部屋の大きさを変えることができます。

続きまして左側の実習棟につきましては、中央に吹き抜けの大空間を配置しており、学科を横断した学習ができる、機械の組み立て・展示、地元企業の協力による研究施策の場として活用することができます。また、左右に2つ並んでいる実習室の4と5、左端の棟の1番上とその隣、体育館と同じくらいの広さを確保しており、将来、実習内容が変わった場合でも、施設の改修は最小限とし、実習機器の入れ替えで対応できるものと考えています。

設計につきましては、令和9年4月の開校に向け、本年12月までの完成を目指し、これまで大湊高校及びむつ工業高校と数年にわたって協議を積み重ねてきたところであり、日程的に最終段階となっております。今後については日程の許す範囲で調整を図っていくこととしておりますことを御理解いただければと思います。

このまま続けて敷地のお話に入ります。むつ工業高校に隣接する市営住宅の敷地の件であります

が、県教育委員会としては、現時点で具体的な想定はありませんが、本件については今後市側と慎重に協議をしてまいりたいというふうに考えておりますので、御理解いただければと思います。私からは以上です。

(佐藤室長)

はい、それでは続きまして、統合校全般に係る御質問等について、当室の方から回答させていただきたいと思います。

まず委員の皆様からの御質問のうち①半田委員からの御質問に対する回答ですが、本検討委員会の設置要綱にもありますように、検討委員会でいただいた御意見につきましては、令和7年度に設置する開設準備委員会に届けられるものと認識しております。開設準備委員会の検討事項に関する御意見については、開設準備委員会へ繋げていきたいと考えております。なお開設準備委員会の協議結果等を踏まえて、開設準備室および県教育委員会で具体的な準備を進めて参ります。

続きまして、次に②濱田委員からの御質問に対する回答です。令和7年に統合校の対象となる学校の関係者等で構成する開設準備委員会で、統合校の新たな名称、目指す人材像、特色ある教育活動について協議することとしております。令和8年度は、おつ工業高校内に設置する開設準備室および県教育委員会において開設準備委員会における協議結果等を踏まえ、開校に向けた具体的な準備を進めてまいります。なお今年度は、令和7年度に設置する開設準備委員会の検討をさらに充実させるため、教育内容等についての情報交換会を開催することとしております。1回目は10月8日に開催を予定しております。現在その準備作業を進めています。交換会は年3回程度を予定しております。

次に⑤畑中委員および⑥佐々木委員の御質問に対してまとめて回答させていただきたいと思えます。部活動につきましては、令和7年度に設置する開設準備委員会で協議することとなります。設置する部活動を、開設準備委員会での協議結果等を踏まえ、令和8年度の開設準備室で決定させていただきたいと思っております。

次に⑦番濱田委員からの御質問に対する回答です。統合校に入学する生徒は工事の騒音等、在籍中に校地内にグラウンドを整備することはできないのですが、在籍生徒の教育活動に影響のないように、活動場所については学校等と相談しながら検討を進めているところでございます。

最後に御質問1の①②ですが、部活動の部員数です。部員数の状況によっては統合対象校同士あるいは対象校と統合校の合同のチームでの練習、大会の出場等も想定されております。なお、第1期実施計画の統合で統合対象校同士、あるいは統合対象校と統合校で県高等学校総合体育大会に出場している事例もあります。以上、県教育委員会からの説明となります。

(高橋座長)

はい、ありがとうございました。

それでは次に「令和6年度進路に関するアンケート調査結果」について、事務局から御説明いただきたいと思えます。

(企画課長)

すみません。ここで、先ほど配布させていただきました図面の方を回収させていただきますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

((図面の回収))

4. 案件

(企画課長)

御協力ありがとうございました。

事務局から説明いたします。「令和6年度 進路に関するアンケート調査結果」についてですが、前回の会議で、調査範囲を拡大して実施した方がよいとの御意見をいただきましたので、むつ市以外にも、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、横浜町と調査範囲を広げまして、8月下旬から9月上旬にかけて実施いたしました。

調査方法は前回同様、学校を通じて対象者全員に通知し、オンラインで回答を求めたものとなります。夏休み明けという時期、また中学校では修学旅行の時期が重なる学校もございましたが、各学校に御協力いただいたことにより、全体の回答率がアップしておりますことから、生徒及び保護者の動向がより詳しくわかる内容になっていると考えております。実施にあたり、御協力いただきました、各中学校と高校の先生方、そして各地域の教育委員会の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

それでは、アンケートの結果について御説明いたします。事前に資料をお送りしておりますことから、簡単に説明させていただきますので、御了承願います。なお、前回3月に実施いたしました、市内を対象とした調査結果と比較いたしますと、生徒、保護者ともに、大きく傾向は変わらないという結果になっております。

それではまず、資料②生徒用のアンケート調査結果についてでございます。2ページをお開きください。前回の全体回答率27.2%に対し、今回は47.0%と大幅にアップしており、半数近い生徒から回答を得ることができました。

続きまして、16ページと17ページをお開きください。質問の6番についてであります。令和9年度に下北地区統合校が設置されることを知っているかとの質問に対し、前回調査時は8%の生徒が「知らない」と答えているのに対して、今回は7%と同水準であります。なお、下北地区統合校の当事者であります現中学1年生のうち「知らない」と答えた割合は10.3%と、約1割の

生徒が下北地区統合校について認識していないという結果になりました。

次に、20ページと21ページをお開きください。質問の8番、中学卒業後の進路の希望地についてですが、右側の円グラフを御覧いただきたいのですが、むつ市内を希望しているのが57%と地元志向が強い傾向となっております。むつ市外が15%、青森県外が8%とそれぞれ1割程度の生徒がそのように希望しております。

続いて、資料③保護者用のアンケート結果についてであります。2ページをお開きください。こちらでも前回の回答者数569人に対し、今回御回答いただいたのが763人と大幅に増加しております。

次に、8ページと9ページをお開きください。質問の6番、中学卒業後の進路についてですが、9ページの一番下、学年別の①中1のところを御覧いただきたいのですが、下北地区統合校の当事者である中学1年生のうち、大湊高校とむつ工業高校を含めると、下北地区統合校を希望している生徒が30.8%と、約3割の生徒が下北地区統合校を希望しております。

次に、10ページと11ページをお開きください。質問の7番、中学卒業後の進路先の地域についてですが、保護者の希望は、むつ市内が65.2%、青森県内では79.2%と、保護者の多くはこどもに地元に残ってほしいと考える傾向が強いと言えます。

つづきまして、要望書（案）に関して御説明いたします。資料④要望書（案）を御準備ください。こちらでも事前に送付しております資料ですので、詳しい説明は省略させていただきますが、これまでの会議における委員の皆様の御発言をベースに、事務局でまとめた内容となっております。

まず、最初のページで、当検討委員会が設置された経緯と目的について説明する部分がございます。次のページから実際の要望内容について5項目にわたって記載しております。その5項目についてであります。1は学科について、2は新校舎について、3は校舎の利活用について、4はグラウンドの整備について、5はその他の課題についての要望内容となっております。

4回にわたって開催された会議での御発言をもとに、案としてまとめておりますが、要望内容に関しての不備や不足、また表現方法の食い違いなどありましたら、このあとの意見交換の際に御発言いただければと存じます。また、こちらに記載されていない新たな要望などがございましたら、実際にその御意見を要望書に盛り込むべきかどうかを意見交換していただき、さらにどのように記載するかを今日の会議で決定していただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

（高橋座長）

御説明ありがとうございました。

ただいま事務局からも説明がありましたとおり、本日お集まりいただいた最大の目的がこちらでございますので、ぜひ忌憚のない御意見を出していただいて、「要望書」をまとめる方向に進んでいきたいと思っております。その点をふまえて、これから意見交換していきたいと思っておりますので御協力を

お願いいたします。それでは、早速、意見交換していきたいと思います。

事前に意見書を出していただいておりますので、畑山委員と半田委員は順次御発言をお願いいたします。

(企画課長)

皆様のお手元に「別紙」という形で、「要望書(案)に係る意見書」と書かれた用紙がすでにお配りされていると思いますので、こちらの方を御覧いただきたいと思います。本日配付させていただいた資料になります。

(高橋座長)

畑山委員お願いします。

(畑山委員)

風間浦中学校畑山です。よろしく申し上げます。座って説明させていただきます。下北地方中学校長会の方でこれまで数ヶ月にわたってこのことについてアンケートをとり、そして中学校長会の会議の中でいろいろと意見交換をして、中学校長会としてどうしていくべきかということを検討してまいりました。

つい一昨日その最後の会議がありましたけれども、やはりいろいろな校長先生方から出される意見としては、とにかく保護者と生徒がまずどう思って、何を望んでいるかというのをしっかりと把握して、結局何を求めているのか、子どもたちはどうなりたいたいのかを見つけていけるように、夢を描いていけるような学校にしてほしいなというような意見、これがたくさん出されておりました。

ただ私の方でも先日資料が届きまして、要望書の方も確認させていただき、下北地方中学校長会の方で出された意見ともいろいろと照らし合わせてみましたが、この要望書の中に下北地方中学校長会で出た意見がほぼ網羅されているなど感じております。寄宿舎のことも出ているのでそちらの方に関しましては、特に何もございません。

ただ話題に大きく上がったことが、私の方で作成しました意見書にある内容でございます。ここに書いてある通りですけれども、下北地区の中学生の高校進路先で1倍以上になっているというのが田名部高校の定時制だけであると。現在もう70名を越えています。本当にギリギリの定員という中で、先生方の配置の人数は変わっていないということでした。田名部高校の校長先生と話す機会があってお尋ねしたところ、例えばこれ以上どんどん子どもの人数が増えていくというふうになったとしても職員の教職員の配置の人数は変わらないということがわかっております。となると、これからもしかしたら定時制を受験するということで、入れない生徒が出てくることを懸念しているところです。そういうところを加味していくと多様な中学生の受け入れ先となっているのが今の田名部高校の定時制であります。

この前の会議の中で、高校でも特別支援、今回の統合校で特別支援の視点を持った教育ができないかなという意見も出ましたが、ただこれはここの狭い中での話ではないものですから、そちらの方は置いておきます。ただ今の「多様」というところで、定時制に行きたいという生徒の中にも、例えば少し特性の強い子で、ものづくりというようなところで力を発揮するという生徒がたくさんいるということを考えた時に、統合校でも全日制と、定時制というのを併設して、そして技能を育成しながらものづくりを通した資格取得を目指して、そして高校卒業後の進路達成に向けていけないものかなという意見が出ました。

実際ここに載せましたけれども、福島工業高校の方では全日制と定時制というのが併設されていて、その成果が出ていることを伺っておりますので、工業高校の良さを最大限に生かすことができるという視点で、何とか新しいこの統合校で、福島工業高校のような形を取れないものかなというふうな意見が多数出ました。そちらについては、要望書の中にありませんでしたので、私の方でこちらの方の要望書にかかる意見書ということで提出させていただきました。すいません、長くなりましたが以上です。

(高橋座長)

はい、ありがとうございました。ただいまの畑山委員の御意見について質問や御意見ありましたらどうぞ。いかがですか。

それではただいまの御意見を実際に要望書に記載するという事で皆さんよろしいでしょうか。

((出席委員の同意))

(高橋座長)

よろしいですか。それでは次に、半田委員からお願いします。

(半田委員)

私は今まで下北地区統合校は大湊高校とむつ工業高校が一緒になると思っていました。先月までは。ところが先月の話聞いたら全く別個だった。むつ工業高校も大湊高校も廃校になってから新しく高校ができるという理解でしたが、これは間違っていました。教育委員会の方、今の私の考えは間違っていますか。

(佐藤室長)

R9年度に下北地区統合校というのが新たにできます。大湊高校、むつ工業高校の学びを引き継いで新たな統合校ができるという風に考えていただければと思っております。

(半田委員)

なぜそういう無駄なことをするのか。学校が3つもあって、校長も3人いて、教員も。この教員不足の折に、なぜそういう無駄なことをするのかなと思っていました。

(佐藤室長)

校長先生が3人というわけではなくて、統合する学校はむつ工業高校と大湊高校、統合するのはR9年度で、施設を使うのはむつ工業高校となっております。ですので、その際、校長先生が3人というのではなくて、むつ工業高校の校長先生が、これまでのところの流れでいきますと、兼務するという形であります。むつ工業高校の校長先生が新しい統合校の校長先生を兼務する、それからまだR9年度は大湊高校が閉校しておりませんので大湊高校の校長先生は変わらない形で、学校運営の方はさせていただく、そう考えます。

(半田委員)

今のお話ですとむつ工業高校と一緒に全部集める、と。大湊高校もむつ工業高校も。そうでないのか。

(佐藤室長)

むつ工業高校の方に新統合校が設置されます。R9は統合校に新しい新1年生が入ります。ただ、大湊高校は統合されていますので、2年生、3年生は在学していますけれど、新1年生が入らない状態にある。R10年度になれば大湊高校は新1年生が入らないので3年生だけという形。

(半田委員)

要するに、旧むつ工業高校、旧大湊高校は自然消滅ということですよ。

(佐藤室長)

はい、新しい高校に統合されるということです。

(半田委員)

統合という言葉が引っかかる。それならもう大湊高校もむつ工業高校も廃校にして新しい高校を建てると言った方が我々にはわかりやすい。今まで我々の会議でやってきた、むつ工業高校のいいところ、大湊高校のいいところを合わせていい高校を作ろうと今まで一生懸命議論してきたわけですよ。新しい高校はもう設計図ができていますが、我々の要望は通るのか、通らないのか。この設計図ができてしまえば、大抵のことはもうできない。もっと人数増やしてほしい、違う科目を設けたい、何がしたいとか言っても、もう設計図ができてしまうと、簡単にはできるものではない。無

駄な努力だと薄々感じながらも我々は会議をやっていますけれど。

例えば、三本木農業恵拓高校（三本木農業高校が母体となって、十和田西、六戸高校が統合）のときは、各学校は自然消滅したのか。

（佐藤室長）

今のおつ工業高校と同じ形態でやらせていただいた。

（半田委員）

3年、2年、1年が一緒になって、学校、校名は変えてもいいからそのようにしていくのかなど思っていた。

（佐藤室長）

3年生、2年生、1年生がそろっていないのかという話だけですと、おつ工業高校では従来の3年生2年生が在学している。

（半田委員）

大湊高校もおつ工業高校もかなりの卒業生がいる。もう母校はない、というのは、それくらい寂しいものはない。母体はもともとこの高校だったというものを見つけられないという全く別の方向に行ってしまうと、我々の母校はもう無い、とそういう風になってしまう。

（佐藤室長）

今までのお話があった恵拓高校の、三本木農業を引き継いでいる部分、それから六戸高校を引き継いでいる部分、十和田西高校を引き継いでいる部分、それぞれの方法を引き継いだ形で、新たな恵拓高校という形で運営させていただいております。同じ時期に五所川原高校というのが統合されて、同じように統合した母校の伝統を引き継ぐ形で運営させていただいております。

同じようにおつ工業高校や大湊高校も新しくできる、学校名はまだ決まっていないですけど、下北地区統合校のほうで、それぞれの学校の伝統を引き継ぐという形で、運営していただくこととしておりますので、御理解いただければと思っております。

（高橋座長）

よろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは他にございますか。はい、それでは、欠席ですけども奥島東通村教育長さんから意見書が出されておりますので、御確認ください。

(企画課長)

東通村の奥島教育長様から御意見をいただいておりますので、私の方から紹介させていただきたいと思います。

「検討委員会に出席できず申し訳ありません。要望書(案)はこれまでの検討委員会での議論、生徒、保護者、地域の思いや願いが反映された内容となっているので賛成します。」

以上のように、オブザーバーの東通村の奥島教育長からは要望書案について賛成という御意見を頂戴しておりますので御紹介させていただきました。以上でございます。

(高橋座長)

ありがとうございます。では、畑山委員の御意見を要望書に記載するという事でよろしいですか。ありがとうございました。それでは次にまいります。

このほか事前に提出されていない方で意見のある方、この機会に発言しておきたい等ありましたら、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、これらについて検討委員会の意見として要望事項に追加したいと考えますので、事務局は次回の会議までにこれらについて要望書に盛り込むようにお願いします。それではここで事務局から今後のスケジュールについて御説明をお願いします。

(企画課長)

それでは今後のスケジュールについて御説明させていただきます。まず前段での要望書案について御検討いただきましてありがとうございました。畑山校長先生からいただいた御意見をこちらの方にさらに追加するような形で再度整理いたしまして、また次回の会議で御提示させていただいて最終案という形で、決定させていただきたいと思いますので、ぜひ御協力をお願いいたします。

それでは今後のスケジュールについて御説明させていただきますので、お手元に配付させていただいております、資料⑤の方を御準備いただきたいと思います。それでは本日のこの会議終了後のスケジュールについて御説明させていただきます。

10月下旬に次回第6回の会議を開催させていただきまして、要望書を最終確認というふうな形で委員の皆様にご確認いただきまして、そして不備・修正等がなければ11月に青森県教育委員会様の方に直接出向きまして、青森県の風張教育長様の方に要望書を提出するというふうな予定で進めていきたいと考えてございます。要望書の提出にあたりましては、要望書の方に連名で記載させていただいておりますけれども、当該委員会の設置者であります山本むつ市長とこの委員会の座長の高橋先生に代表していただきまして、青森県風張教育長にお届けする方向で、調整したいと考えております。今後のスケジュールについての御説明は以上でございます。

(高橋座長)

ありがとうございました。何か御質問ございますか。よろしいでしょうか。

(濱田委員)

はい、むつ工業高校の濱田です。今回要望書ということでまとめていただきましたけれども、参考までに伺いたいのですが、県内の、先ほど言っていた恵拓高校の話とか、やはりその際に今回のようなこういう要望書は出されたのですか。

例えば要望書の中でも、ここまではできる、できない、という判断はこれから多分いろいろと協議はしてくれるとは思いますが、要望書が出されて、実際どの辺までやることができたのかというのを、今わかる範囲で教えていただければと思います。

(佐藤室長)

記憶している中では、出されていなかったはずですよ。

5. その他

(高橋座長)

それでは次に、他に御質問ございますか。御質問がないようですので次に「その他」ということで、皆様から御意見等ありますでしょうか。よろしいですか。

はい、それではですね、最後にオブザーバーで出席いただいている皆さんから順次、御意見を頂戴したいと思います。県教委の方から何かございますか。

(佐藤室長)

特にございません。

(高橋座長)

よろしいですか。はい。それでは風間浦村の教育長さんお願いします。

(村上教育長)

要望書案の作成に関しまして、委員会の皆さん大変お疲れ様でした。まず生徒のアンケートを見させてもらいまして、これを自分なりに集約したら、子どもたちは、取得したい資格が取れる専門的な学科の設置を望んでいるとまず知りました。それを受けて下北地区統合校ではやはり専門性のある学科を細かく設置して、それに対応できる専門的な教員を配置するのが求められると思います。これは要望書の1番に書いてあります。

それから、保護者の方のアンケートも読ませていただきました。自由記述の中で、保護者の方は、高等教育への支援、高校以上の教育への支援充実をお願いしたいということでした。資格取得が地元でも可能となる学科の設置をぜひお願いしたいということですから、高校への通学支援・補

助というようなことが大きくあると思います。これも要望書にあったと思います。

これらの意見から自分なりにわかったのは、やはりむつ下北を育てるための教育、言葉を変えると、むつ下北を育てるための学校づくりをおそらく下北地区統合校では、皆さん期待しているのではと思います。どういうことかと言うと、地元で学んで、地元で資格を取得して、それを地元で還元するということ。児童・生徒のアンケートからも保護者アンケートからも見てとれると感じました。

ぜひ、むつ下北を育てる学校という意味で、下北地区統合校、校舎を含めて検討をよろしく願いたいと思います。ありがとうございました。

(高橋座長)

はい、ありがとうございました。それでは佐井村の曾根教育長お願いします。

(佐井村 曾根教育長)

大変お疲れ様でした。県教育委員会の皆様わざわざお越しいただきまして感謝申し上げます。せっかくなので県教委に皆さんもっと御質問されてもよろしいのではないかなと思いました。時間もまだあるのに、と思いながら。

今後のこととしましては、むつ下北地区に田名部高校、大間高校、統合校の3つになるという現実があります。それをふまえて、委員の皆様も今まで、こういう高校がいい、こういう部活がいいと一生懸命意見を交わしていらっやっと思ったと思います。それだけ地域の期待も大きい統合校になると今日もしみじみ感じているところです。

県教委の皆様も関係機関の皆様も一生懸命なさっているのは重々承知しておりますけれども地域がどれだけ熱い思いで統合校に期待しているのか、そして今、中1のアンケートもありましたけれども、中学1年生というとまだ本当にこどもと言いますか、まだ先が見えてない部分もたくさんあるこどもたちですけれども、3割程度のこどもたちが統合校を希望しているという現実があります。そういう現実を踏まえてこれからのこども達が期待をもって、ここでよかったな、この学校に来ていいな、そういう思いを深く実感できるような学校にしていただければ本当にありがたいことだと思います。

先ほど下北地方校長会からの定時制の要望がございましたけれども、新しい視点として私もぜひ賛同したいと深く思います。そこから課程について全日制、定時制について御検討いただくというのは非常に難しいことではないのかと重々承知しておりますけれども、下北の実態を考えましたときに、非常に有効な考えだと思いますし、建物とか教育課程のこと、定時制というのもまた違う形で可能ではないのかな、と思います。可能性が全くないということではないと私も認識いたしましたのでぜひ御検討していただければ大変ありがたいことだと思います。下北のこどもたちは人数が少ないですけれども、可能性はたくさん秘めていると思っています。教育が果たす役割、高等教育

の果たす役割は非常に大きいと思っておりますので、下北の我々の熱い思いを汲んでいただき、検討の方よろしくお願ひしたいと思います。あと、委員の皆様本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(高橋座長)

それでは、横浜町の小原教育長お願いします。

(横浜町 小原教育長)

上北地区ですけれども生活実態、進学実情はむつ市と、あるいはむつ下北と非常に濃いものがありますので、この会議に参加させていただいております。本日設計図面を見て、いよいよ出来上がるなというような実感もあるわけですが、保護者アンケートあるいは生徒アンケートを見てもそこがゴールじゃなくて、そのあと高校に入ってから自分の夢に向かって、進学あるいは就職、そういったことが非常に強く出ております。ですので、新たな船出をする部分、そういった保護者や生徒の期待に応える、あるいは期待以上に対応してくれるような進路指導、あるいは就職指導、そういった強さを持った構成というか、配置を準備していただきたいと思ひます。それから元々のむつ工業高校、あるいは大湊高校、横浜町にもたくさんの卒業生がいるわけですが、やはりそれぞれ特徴がありました。まだ、ありますけれど。それぞれの高校の非常に良いところ、専門性の高いところがやはり新しく1つになっても、そこはしっかり意識されていれば、校名的には自分の母校が無くなったとしても、確実にそこを引き継いでくれているという思ひも強くなるのではないかと思ひます。

最後、もう一つ。おそらく新しい学校も、生徒の構成人数比率からいうと、むつ市のこどもたちが多くなると思ひます。あとは下北、横浜町そういったところからも行くと思ひますけれども、遠方から来るこどもたちにとっての通学上の利便性、これについてはこの委員会ではどうこうというのは、それは違うのではないかと思ひます。ただ、どこでそれを誰に伝えればいいのか、ちょっとわからない。なので、1つの見方としては、広く遠方各地から生徒にできるだけ通ってもらえるようにするための通学上の利便性、そういったところを、これは市が考えるのか何とも言えません。ただこれも、進学する高校を設定するにあたって重要なことではないかと思ひます。

ということで、同席させていただいて、大変勉強になることばかりでございます。委員の皆様の方々の様々な視点からの御意見ですから大変勉強になりました。ありがとうございました。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。以上で全て予定された案件を終了いたしました。それでは事務局にお返しいたします。ご協力ありがとうございました。

6. 閉会

(司会)

委員の皆様、並びにオブザーバーの皆様、ありがとうございました。それでは、以上をもちまして本日の会議を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。